

委員会視察報告

厚生文教委員会

6月26日～28日

子供と向き合う

時間を増やす

～学力向上対策について～

日出町では学力向上策で最も効果的な事は授業改善であるとし、「新大分スタンダード（基礎・基本の定着、学びに向かう力、思考力・判断力・表現力の育成を目指すもの）」の着実な実践を進めていた。また、職員の朝礼をやめ、子供と向き合う時間の増加に努めていた。

大分県日出町



我が町でも各種学力向上策を展開しているが、小学校4年生まで、しっかりと授業が分かるよう、少数教育に取り組むことが重要であると考え。

住民を含めた道徳の

まちづくりを实践

～道徳教育からまちづくり及び学力向上対策について～

昭和52年に発足した「久山町道徳推進委員会」は家庭、地域、学校が協力し、昭和55年から道徳記念講演会を継続実施のほか、住民も含めた道徳のまちづくりとして授業交流、あいさつ運動、道徳カルタなど様々な取り組みを行っていた。

福岡県久山町



我が町では「みずほ学」により郷土を愛する心の育成を目指している。久山町のように、住民を巻き込み、人と人のつながりを深くする「あいさつ運動」を今以上に力を入れていくことが、将来の町の発展につながると思われる。

公民館を拠点に住民が主体で健康づくりを推進 ～ヘルス・ステーション事業について～

古賀市の進めるヘルス・ステーション事業は、各地域にある公民館を拠点に、住民が主体となって健康づくりを推進するもので、市の養成講座を受講した健康づくり推進員や介護予防サポーター、食生活改善推進員らが協力して健康測定や健康学習など、健康増進・介護予防を推進していた。

我が町も各地域に会館があり、住民の活動の拠点となっている。地域の住民の代表として健康づくりや介護予防に取り組む健康づくり推進委員らが、さらに活躍できる場を考えるべきである。



福岡県古賀市

◎委員長 ○副委員長

◎村山 正利 ○原 隆夫
◎近藤 浩 森 亘
◎高水 永雄 古宮 郁夫

小川 龍美

GIS（地理情報システム）を使って住民サービスを充実 ～G空間情報とICTの連携活用事業について～

北見市ではGISとGPSを活用した「災害対策情報システム」を導入し、雪害時に除雪車の位置を把握し、的確な対応を図っていた。さらにスクールバスの位置情報確認へと事業展開を図るとともに、既存のメールサービスやネットと連携して避難所情報の発信や住民の検索訓練のほか、緊急時に登録者の診療情報を救急隊が把握できる取り組みも行っていた。

迅速に、正確な情報をつかんで応用する取り組みは大変有益であり、我が町でも導入すべきと提言した。



北海道北見市

独自ブランドを新たに挑戦

～農産物のブランド化・特産品化に対する取り組みについて～

網走市は営農集団の組織化で麦、馬鈴薯、甜菜（てんさい）の生産では生産高の94%を誇るが、地元農産物にさらなる付加価値を付けようと、産官学の共同で運営する研究所を設立。独自のブランド化に取り組み、行者ニンニクとニラを交配させた「行者菜」の生産をスタートさせ、学校給食にも提供するなどを啓発に取り組んでいた。

我が町で取り組みやすい野菜と考え、研究・検討を提案した。

北海道網走市



時間・場所に捉われない働き方を推進 ～斜里ふるさとテレワークについて～

斜里町では働く人呼び込み、観光や地域コミュニティにつなげるため、時間や場所に捉われないテレワーク事業に取り組んでいた。ウェブ環境の整ったサテライトオフィス、テレワークセンター「しれとこらぽ」を整備し、町民による任意団体「知床ワークス」が運営していた。28年度からは長期滞在用の「テレワークハウス」も開始していた。この事業の需要は今後高まると考え、我が町でも空き家の活用も含め、導入を検討すべきと提言した。



北海道斜里町